
愛し合う夫婦の1日

阿部 裕治

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

愛し合う夫婦の1日

【Nコード】

N7923Y

【作者名】

阿部 裕治

【あらすじ】

本当は、昨日の良い夫婦の日に投稿したかったのです。

(前書き)

サトカス結婚している説定です

此処は、カントーマサラタウン

此処にポケモン界の頂点に君臨するポケモンマスターサトシとその妻カスミが住んでいる。

この2人が結婚してからまだ1週間。

新婚旅行は、月が変わってから夏本番になってからだ

さて2人の家は、サトシの実家からおよそ1km離れた所にオーキド研究所並みの庭を持った家である。

これは、マサラタウンからマスターが出た祝いとして町内会の方で用意された。

しかし僅か1kmに建ってるので結婚前は、実家に住んでいたが流石にカスミと結婚して、実家に居続けると言うのは色々あり、此方に引っ越しをした。

それと、同時にオーキド研究所に預けてたポケモン達を自宅の庭へ移動させた。

そしてサトシの相棒ピカチュウも庭にいる。

「……もう朝ね」

カスミが目覚めた。指輪は、カーテンから漏れる光を浴びて輝いていた。

「昨日は、疲れてたから、もう少し寝かしたおこう」カスミ二人で寝るベットから出て朝食の用意をしてくる。

朝食の準備をしたら再び寝室に戻った。

やはりサトシは、寝ていた。

「もう……お子ちゃま何だから」

サトシが掛け布団を剥いだからそう言った。

しかしもうこの台詞を言えるのは、妻のカスミしか言えない。

サトシは、8回ポケモンマスターの防衛に成功している。

これは、マスターの就任記録NO. 1である。

カスミと結婚したのは、歴代記録を抜いた8回目の直後だった。そして結婚を理由にカスミもジムリーダーを引退した。

「……早く起きてほしいな」

ベットに座りながら呟く。

するとカスミは、ベッドに引きずり込まれた。

「きゃ……サトシ？」

「ん……おはよう、カスミ」

「おはよう、サトシ」

もう、何時も通りおはようの口付け。

「もう着替えたのか？」サトシ

「もう10時になるわよ」カスミ

「マジ。あーでも残念だぜ。」

本当に残念そうにサトシが言う

「何が？」

「だってカスミの寝起きマジで可愛いんだよな。はあゝ」

「もう恥ずかしい事言わないで……でもサトシありがとう」

「オウ。さてと起きるか」

そう言ってサトシも取り合えず部屋着に着替えてリビングへ

「あれ。飯少なくてねえか」

テーブルの朝食をみてサトシは、言う。

「あと少しでお昼なんだから、朝は少しセーブしないとね」

「成程」

ポンと叩く

ささっと朝食を食べて庭のポケモン達にもご飯を配る。

それが終われば後は、何もする事がない

偶にサトシが近所の子供達とこれまたマサラタウンの町内会の方で用意してくれたバトルフィールドでバトルを実戦で教えるだけ

「何すつか」サトシ

「買い物は、昨日したからね。でも出掛けるにしても表のマスコミは、厄介よ」カスミ

「だよな」サトシ

表には、沢山のマスコミが居た。

まあ最強のマスターとハナダの美人ジムリーダーが結婚をしたとなれば当たり前だが・・・

「とりあえず、さっき食べたけどお昼にしましょう」カスミ

「だな」サトシ

「サトシ、何か食べたいのある？」

エプロンを着けながらきく。

「うーん。ナポリタン食べたいぜ」サトシ

「わかったわ。じゃあテーブルの用意宜しく」カスミ

「OKだぜ」サトシ

すぐに昼食を準備して食べる。

「カスミ……」

「うん。あたしもして欲しい」

カスミは、手が、伸ばされている意味が分かっていた。そしてそれを望んだから。

カスミは、サトシの腕の中に収まっていく。

「カスミ、明後日デート行こうぜ」サトシ

「でも表に居るじゃない」

マスコミの事を言う。

「庭からリザードンで行けば良いじゃんか」サトシ

「うん。久し振りにサトシとデートしたい」カスミ

「でさ、その時に今度の夏祭りの時に着る浴衣選んでも良いか？」
少し赤く成りながら聞く。

「うん。じゃあ、あたしもサトシの選んでも良い？」カスミ

「勿論。カスミ、こっち向いて」

「何、サトシ」

カスミは、サトシの方を見る

「カスミ、愛してるぜ」

と言ってカスミの額や唇、頬、首筋、耳、目蓋、肩や髪に優しくキスを落としていく。

「サトシ、もつとして」

カスミも上目遣いでおねだり。

「わかった」

それに答えるように何度も何度もする

「カスミ、離れさせないからな」サトシ

「うん。あたしもサトシを離したくない」カスミ

相思相愛とは正にこの事

「カスミ、昼寝しようぜ」サトシ

「うん」カスミ

カスミは、立とうとするが、サトシが離さない

「サトシ、離してよ」カスミ

「ヤダ。一度したかったんだよね・・・よつと」

「ええ、サトシ」

カスミを持ち上げお姫様抱っこ状態にする。

「カスミの事、一回お姫様抱っこしたかったんだよな」

満足なサトシ

「ねえサトシ。じゃあさく今日からは、夜やお昼寝する時あたしをベッドまでこうして」

カスミが上目遣いでおねだり。

「（どんどん可愛くなるぜ。そんな顔されたら俺、無理）勿論。てか嫌な訳ないだろう。俺は、カスミの事大好きだし愛してるだから」サトシ

「うん。あたしもサトシの事大好きだし愛してるわ」カスミ
そうしてる間に寝室のベッドへ横になる。

「サトシ、何時もみたいにしよう」

「分かってる」サトシ

サトシがイッシュから帰って来てから一緒に寝る時は、何時も抱き合って寝るようにしている。これは、結婚しても変わらない。

「カスミ、御休み。」

「御休み、サトシ」

何時ものように御休みの口付けは必ず。

そして夢でも

「カスミくすげえく可愛い」サトシ
や

「サトシく大く好き」カスミ
などである。

そして夕方

「カスミ、夕方だぜ。」サトシ

「本当ね」

カスミは、トロロンとした目で言う。

サトシは、我慢出来ずに、抱き締める。

「本当、マジでお前、寝ぼけた姿も可愛いよ」

更にカスミの額や唇、頬、首筋、耳、目蓋、肩や髪に優しくキスを落としていく。

「サトシ、嬉しいよ。」カスミ

その後もサトシは、カスミを抱きぱっなしだった。

勿論、それを、嫌がらないカスミだった。

「そろそろ、夕食にすっか」サトシ

「うん」カスミ

「今日は、俺が、やるぜ。」サトシ

「へへ。サトシの美味しいからね。じゃあさ、昨日買ったカツでカツカレー食べたいな」カスミ

「よっしゃ。」

さっそくサトシは、トンカツを油でカラツときれいな狐色まで揚げ
る。

その後は、カレーも作る。その途中で

「あ、カスミ、つまみ食いしようとしただろ」サトシ
「だって、お腹減ったし美味しそうだったんだもん」
少し頬を膨らませている。

「ったく、じゃあこれ1つにしるよな。ほらアーン」
一口サイズに切ったのを食べさせる。

「うん美味い」カスミ

「そっか。・・・よし出来上がり。夕飯にすんぞ」サトシ
カツカレー以外にも残っていたサラダを出して夕食タイム。

「サトシ、カレー美味しいよ」カスミ

「そりゃあそうさ。ルーから作っているんだからよ。」サトシ

「本当、あんたもママさんも料理上手よね」カスミ

「カスミだって上手になったろうが」サトシ

「ありがとう」カスミ

2人は、その後も夕食を楽しみ一緒に風呂に入った。

パジャマは、カスミのは、サトシが選んだのを、サトシは、カスミが選んだのである。

ちなみにカスミは、チェックで長袖のマイクロフリースワンピース、サトシが青いチェックの入った長袖スウェットである。

風呂から上がった2人は、リビングのソファでくつろぎタイムを過ごしていた。

モーモーミルクを飲みながらぴたりとくっつき抱き合っていた。

「サトシ、幸せだね」

「そうだな。最高に幸せだ。マスターになった時よりもな」

「サトシ、明後日デート、少し遠い所で遊園地やショッピングしたいな」

「そうだなうんじゃあ泊まりで行くか？」

「うん」

「じゃあ明日は、何処行くか決めようぜ」

「うん。・・・眠くなってきた」

欠伸をする。

「じゃあ、今日は、もう寝ようぜ」

そう言ってお姫様抱っこをして寝室へ
そして

「カスミ、御休み。大好き。愛してるぜ。」

「御休み、サトシ。あたしもよ。」

何時ものように御休みの口付けをして眠りについた2人。
2人の時間を愉しむだけ愉しんだ一日だった。

愛し合う夫婦の1日END

(後書き)

読んで戴きありがとうございました

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7923y/>

愛し合う夫婦の1日

2011年11月23日17時51分発行